

「総ぐるみ」新聞

NPO総ぐるみ福祉の会事務所は日限山4・45・10（八四六―八八五〇）
入会や活動のお問い合わせ先は、事務所または「日限山荘」日限山4・7・1

平成二十五年新春 「初釜」開催で、今年の活動開始

一月七日（月）、西洗・港南プラザ自治会館において、NPO総ぐるみ福祉の会の恒例行事「初釜」を開催しました。

会場には、大橋綾子さんご寄贈の大きな生花が、飾られ、華やかな雰囲気に含まれる中、お茶席が設けられました。

お茶席は「松樹千年翠」の掛け軸と結び柳、真台子には注連縄が張られ、仁清の色絵羽子板香合が床に、お花は椿、席と椅子席には緋毛氈が敷かれ、お正月らしい華やかさと厳肅な空気がみなぎっていました。

お茶の師匠、小泉宗信先生を初めとする二十九名の方々がお正月のお菓子、花びら餅で薄茶を清々しい気持ちで頂戴しました。ホールの北面コーナーに、祝い酒とお弁当をいただく席を設け、お茶席のお点前を眺め、楽しい会話をしつつ、お祝い膳をいただきました。

茶席の道具類をご提供くださり、初釜行事のいっさいを取り仕切ってくださいった大

橋綾子さん、宮崎理事長も和服姿で席主を務め、お運びや裏方のお手伝いをしてくださった松尾幸子理事、会員の山本博子さん、手賀雅子さん、重高八重子さんには、和服姿で大働きをしていただきました。

◆初体験の初釜

池上登士男

十二月のサロンでハッピーの折、大橋綾子さんから「一月七日にNPOで初釜を開きますが、参加されませんか？」と誘われました。

「初釜ですか？ 私は茶道の経験はまったくなく、知識も作法も知りませんよ…」

「そんなことは気にしなくて良いです。お抹茶は身体にも良いので、ぜひ一度は経験なさいませよ」「ハー 考えておきます」その場はそんなやり取りで過ぎましたが、心の中では「人生一度ぐらいは、日本が誇る茶道を経験するのも良いかな」と、くすぶった気持ちで正月を迎えました。そして、四日にやっと決心して、大橋さんと宮崎理

事長に出席の返事をしました。大橋さんからは、お茶席ですから、背広でネクタイ着用が良いでしょうとのアドバイスがありました。

さて、初釜の当日、久しぶりに背広を引っ張り出し、ワイシャツにネクタイを着用すると、現役当時に還った気分、何となくシャツとした気持ちになりました。



十一時前に会場に行くと、部屋の一隅に緋毛氈を敷き、掛け軸とお釜など茶道具一式を備えたお茶席が設けられてあり、まさに茶室の雰囲気です。宮崎理

事長をはじめ女性の方々は、和服姿をキリリと決めて、正月らしい雰囲気を感じていました。

お茶席は、床に正座ではなく、椅子に座っての方式でしたので、正座に弱い私としては大助かりです。亭主の大橋綾子さんに促されて、松永高明さんや中康行さんなど五人ほど一緒に着席。最初にお菓子をいただき、その後にお抹茶がふるまわれました。

宮本鈴子さんが昨年11月11日開催の『NPO総ぐるみ福祉の会』10周年記念式典の折、お気持ちを俳句に詠んでくださいました。その二句をご披露させていただきます。

人々の 春秋いかにや 10周年
はるかにも 盆踊りとは スペインに

お茶碗の持ち方や飲む際の作法が分からなかったため、先の人の様子をしっかりと確認し、いよいよ私の番がきました。恐るおそるお茶碗を回しながらお茶を口に含むと、意外にマツタリとして、優しい味でした。お茶席は和やかな雰囲気、緊張することもなく、お茶を愉しむことができました。『初釜』という伝統行事を体験する貴重な機会をいただき、ありがとうございました。

◆初春

山本 博子

快晴の初春七日、和服姿の宮崎理事長を席主として、華やかな初釜が開催されました。

ご亭主の大橋さんの格調高い席づくり、お道具合わせはさすがでした。総ぐるみ福祉の会は、伝統文化といえる初釜を毎年催され、皆様と楽しめることを嬉しく思います。

本席では、花びら餅と一服のお茶、席を改めてお祝い酒と八寸・お弁当をいただき、楽しく話が弾む中、松永高明さんが「宝船」を吟じてくださり、お正月を満喫いたしました。

私は、久しぶりの参加に、至福の時を過ごさせていただき、皆様に感謝すると共に、この会のますますのご発展をお祈りいたします。

◆初釜にお誘いいただいて

築地眞佐子

膝をわるくしてお茶とも縁が切れて久しいのですが、「初釜は椅子席で」と宮崎理事長から伺い、思い切って出席させていた

だくことにしました。

自治会館には、格調高い立派なお茶席が設けられていました。席主の宮崎理事長、優雅にお点前される大橋さん、茶席全部に目を配り、お茶を運ばれる山本さん、それを見守っていらつしやる小泉先生のお背中に、京都でご指導いただいた懐かしい先生の姿が重なり、一服のお茶にこめられた皆様のお心遣いを、感謝と共に、美味しくいただきました。

その後、お心入れの銘酒・八寸・お食事をいただき、松永さんが漢詩「富士山」と「宝船」を朗々と吟じてくださり、初釜のお席はめでたく盛り上がりました。

近年、帯が締められなくなり、外反母趾のため、今までの足袋や草履が履けなくなるなど、お茶と共に着物を着ることもあきらめていましたが、河合久子さんに着付けを助けていただいて、和服姿で初釜を楽しませていただきました。久しぶりに筆筒から出た着物も喜んでいるような気がして、来年もまた着物を着て初釜に出席したいという、夢を抱くようになりました。

皆様方の準備のご苦勞に感謝し、初釜を皆様と共に寿ぐ幸せな一日を過ごさせていただきました。

平成24年12月21日

日限山荘でクリスマス会開催

平成24年の最後の日限山荘開催日は、クリスマス会で幕を閉じることになりました。

この日は、笹路真三さんがお寿司を作ってくださいました。



当日は、メリークリスマスと緑の文字が書かれた飾り寿司、また、材料を並べたテーブルで、笹路さんがご自身考案の寿司巻き器を使って、次々に巻き寿司を作成、大橋さんがかぼちゃと小豆のいとこ煮を作ってください、和風食材の並ぶ、楽しいクリスマス会となりました。

◆クリスマス食事に参加して

上山 進

家内の芳子ともども日限山荘の食事に参加しました。この日は、ことのほか大勢の参加者らしく二階からはにぎやかな笑い声が聞こえてきます。席を譲ってもらって見回すと、初対面の方が多く居られて、総ぐるみ福祉の会の浸透ぶりに感心しました。笹路さんの祝い寿司や大橋さんのかぼちゃぜんざいに舌鼓を打ちながら、楽しいひと時を過ごしました。

この食事会では、作業する人も食事をする人も、皆かがいしく、にこやかで楽しそうです。西洗のこの素晴らしいコミュニケーションの場は私の自慢です。種々の地域活動がこのように実施できたら素敵です。総ぐるみ福祉の会のますますの発展をお祈りいたします。